

中部地区 公民館だより

第143号

令和5年1月6日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2023



昨年は新型コロナウイルス感染が収まらず、様々な制限のある中での事業運営になりましたが、皆様から深いご理解とご協力を賜りながらほぼ計画どおり実施でき、厚く御礼申し上げます。

また、中部地区公民館が4月から指定管理制度に移行し「中部地区公民館運営協議会」が主体の事業運営となり、地区の皆様が必要としている事業を実施するため「事業検討会」を実施するなど、新たな第一歩を歩み出した年でもありました。

本年は、中部地区公民館運営協議会のスローガンである『上山の魅力を感じて、出会い、触れ合い、未来へとつなぐ生涯学習と交流の場』として、新型コロナウイルスの感染防止対策を十分に行い、皆様から楽しんでいただける事業の企画や、気軽に利用していただける公民館にしていきたいと考えています。

皆様には、健康で幸多き年でありますように、心からご祈念申しあげ、新年のあいさついたします。

中部地区公民館職員一同

はこべの会学習会

11月28日(月)、29日(火)、ムービーオンやまがたで、映画「母性」を鑑賞しました。バス定員の都合上、2回に分かれて開催しましたが、「久しぶりに外出した」という方もいて“映画館で見る映画”に意味があり、良い気分転換になりました。内容は、同じ出来事なのに、母と娘の大きな食い違いと隠された秘密を題材にしている、「自分の子育てはどうだったか考えさせられた」「子育ては終わっているが、反省させられる内容だった」などの感想がありました。

12月9日(金)、公民館多目的ホールにて健康教室を開催しました。かみのやまスポーツクラブの齋藤武司さん郁子さんを講師にモルックを体験しました。「モルックって何や？」から始まり、ルールや実技指導までとても分かりやすく指導いただきました。足、腰に自信がない方でも気軽にできる競技で、楽しく盛りあがりました。「またやりたい！」の声が多くあり、冬の運動不足解消にはこべの会サロンで取り入れることになりました。



縄ないに悪戦苦闘

12月22日(木)、公民館多目的ホールで、しめ飾り作りを行いました。年末の恒例行事となっており、顔なじみの方も多く和気あいあいとした雰囲気を楽しみました。何年やっても何度やっても縄ないは難しく、ため息交じりの諦めムードの方も…。講師の小松正明さんの慣れた手捌きに「これぞ縄ない！職人技」と拍手がでました。ユズリハやマツ、扇などを飾り、手作りのしめ飾りが完成しました。

令和4年度通信大会 短歌の部 入選作品

選者 上山短歌会 鎌上純子氏

総評

一般の部

抒情性に溢れた歌材を詠み大変魅力的な歌の数々でした。完成度も高く一首の調べも佳いです。ただ、旧仮名遣いや助詞の使い方に間違いがあり、残念な歌がありました。来年は、社会詠なども挑戦して下さい。

最優秀

足広げ岸辺の草に船を待つ弁当箱のくわご食みつ

後藤栄子(御井戸丁)

《最優秀の評》

「船を待つ」「くわご食みつ」で遠い回想の歌と思われれます。空弁当にくわごを摘んできて、それを食べながら帰りの船を待っているのでしょうか。現代の慌ただしさから離れ、ゆったりと牧歌的な気持ちになる秀作。

優秀

野をはしる新幹線のぐわうおんにくずのはな揺るゆふかげの畑

新寺 登(八日町)

ホーホーと船を呼ぶこえ空に消ゆ船頭とまやでキセルを口に

後藤栄子(御井戸丁)

佳作

鉄橋の轟音の来る朝の窓「つばさ」を見流し今日の始まる

須川の辺菊芋の花高く咲き遠く紫紺に染む蔵王峰

山口修一(北町)

川浴みし冷えた体に石を抱き温め合ふ児の肌まだらなり

阿部晴夫(栄町)

総評

小中学生の部

学校で実際体験したことを、その場になくても分かるように詠んで上手でした。「おもしろい」「がんばった」はどんな風なのか入れると生き生きしています。

今度はおうちの人を詠んだ歌もどうぞ。

最優秀

としょかんでほんをかりるのおもしろいおばけずかんも

かたぎりゆう晴(上小二年)

だいすきなんだ

《最優秀の評》

図書館には、たくさんの本がありますが特に「おばけずかん」が大好きなのでですね。こわいほんですか？かわいいおばけもいますか？

この歌は「おばけずかん」とはつきり出したので、読者もわくわくしてきて上手です。

優秀

さつまいもこうすけくんとほったんだ大きかったよはやくたべたい

すがはらまさみ(上小一年)

あさがおのつるをまるめてつくったようまくできたよりーすができた

おかざきこうすけ(上小一年)

佳作

さんすうのけいさんカードひきぎんがはやくなつたよ

れんしゅうしたよ

えいさかけい(上小一年)

ずこうしつぺったんコロコロやりましたなんどもなんども

えのぐをつけた

ふじおかずき(上小一年)

めだかいけちやいろいろやごをみつけたよいつもとちがうめだかいけだね

すず木青空(上小二年)

ヨガ教室 2回目

12月13日(火)に今年度2回目のヨガ教室を公民館、多目的ホールにて開催しました。無理せずゆっくりと身体を動かし体のゆがみを取り、免疫力UPをはかりました。

今年もまた、ゆったりとした素敵な時間を過ごせました。



鏡 先生

ケーキつくり教室



吉田安俊先生



12月17日(土)、ケーキ作り教室を開催しました。たくさんのイチゴと、たっぷりの生クリームを使って楽しく飾り付けをしました。みなさん満足のいく出来上がりでした。

ハンドクリームつくり教室

蜜蝋を使った手作りのハンドクリームを作ります。お子さん、お孫さんと一緒に参加してみませんか？

日 時	1月22日(日) 午前10時から正午
場 所	多目的ホール・調理室
講 師	ハチ蜜の森キャンドル 代表 安藤竜二氏
対 象	中部地区在住の方、家族 ・親子、夫婦、祖父母など お一人の参加でも大歓迎です
募集人数	8組程度(人数になり次第締切ります)
材 料 費	1,000円
持 ち 物	マスク着用 必要な方は飲み物、エプロン
受付開始	1月10日(火)午前9時から



参加者募集

カローリング — 出前スポーツ教室

健康ポイント対象事業 20P

床の上でカローリングをします
集中力UPと作戦を立てて脳トレになります

日 時	1月23日(月) 午前10時から11時
場 所	多目的ホール
講 師	NPO 法人 かみのやまスポーツクラブ
対 象	中部地区在住の方
参 加 費	無料
持 ち 物	マスク着用 必要な方は飲み物 屋内シューズ
受付開始	1月10日(火)午前9時から

1月の予定

13日(金)	はこべの会 歌の教室
18日(水)	はこべの会サロン
22日(日)	ハンドクリームつくり教室
23日(月)	出前スポーツ教室(カローリング)
27日(金)	救命救急講座



はこべの会 サロン

日 時	1月18日(水)午前10時から 音楽を楽しむ会です
-----	------------------------------



1月の百歳体操

1月の百歳体操はお休みです

藤井松平氏シリーズ 1.「藤井松平信通侯」(1)入封のころ

本年9月「人別宗門改帳^{にんべつしゅうもんあらためちょう}」元禄十一年(1698)3月が「地区誌北町」の別冊として発行されました。「人別宗門改」とは切支丹宗旨を判別^{きりしたん}しながら戸籍を記録する役割を果たしました。

その上山初の人別帳記録に、北町男208人中青年ら3人が「金森出雲守様に御奉公、郡上^{ぐじょう}にまかりあり候」、中には中年男「去る丑元禄十年(1697)秋郡上へ行きそれよりすぐに土岐伊予守(城代)様へ相済み大坂にまかりあり候」と記されている者があります。末尾に青年4人「(藤井松平氏)上山御足輕に奉公」、5人「当町より御直参に出る奉公人」と記録されています。土岐侯、金森侯への御奉公、また新任領主藤井松平信通家^{のそ}へ御奉公の様子が記され、当時の領内動態を覗き見る貴重な記録です。

さて、金森侯の次に藤井松平信通侯が元禄十年(1697)9月15日に上山領封入が発令されます。その信通侯に「城再築」の許可が出されました。これは何故か?先々代まで^{よりたか}営々と築き挙げてきた名城上山城を土岐頼殷侯は跡形もなく破却しました。幕府命と考えるのが自然です。その後、金森氏家臣団は町屋に仮住まいしながら藩庁館を建てて藩政を行いました。時の将軍は五代綱吉公です。

『上山三家見聞日記』(資料集⑪82pA294 項)に「元禄十一年(1698)当所へ松平中務少輔^{なかつかさしろうゆう}信通公御入部九月に至り江戸上野東叡山(寛永寺)根本中堂同吉祥門御造営なるにつき京都より勅容下る」、続けて元禄十四年(1701)3月14日朝のことですが、「同勅使(江戸に)御下向につき高家吉良上野介殿、播州赤穂の城主浅野内匠頭御馳走人(饗応役)に付き(役仰せつけられ)殿中にて喧嘩せられ上野介殿(の)小びん切りつけられ(上野介は)逃げ延び助かり申され候、(勅使饗応の)折節も所柄も謹み申すべく場所に候ところ、真剣わざ無調法の至りとて内匠頭殿御切腹仰せつけられ候」と公儀事項を記しています。

将軍綱吉が母桂昌院(三代家光の側室)に従一位叙位を願い出て勅使を迎えましたが、母への孝行を汚す行為と激怒しました。儒教で五常

八徳(仁・義・忠・孝など)の「忠孝」は「主君への忠義、親への孝行」の重要徳目です。その至誠心が激列憤怒に頭れ「喧嘩両成敗」(慣習法)にもかかわらず内匠頭への即座の切腹命となりました。主題がそれていますが、この殿中刃傷沙汰により浅野匠頭切腹、浅野家改易、家老大石内蔵助は赤穂城を無血で開城します。城は隣藩脇坂氏の預かり、代官統治の処置は元禄十五年(1701)12月14日の四十七士討ち入りにつながります。しかし、「赤穂城」は破却されませんでした。

将軍の母への思い(忠孝)がありますが、片や赤穂藩士の忠孝、夫婦・家族のことは代々あっぱれと語りつがれ、忠義心道徳は全国に根付いていたことを示してもしています。しかし、同時代の上山城、高山城破却と赤穂城存続を比較考証しても、幕府処断の基となった儒教モラルから見ればアンバランスが歴然としています。五代将軍綱吉は「生類憐れみの令」で知られていますが、元を探っていきまると父家光(三代将軍)が二男綱吉に長幼の序弁えの儒学を叩き込んだ(後の四代将軍の兄家綱への忠義孝悌^{ちゅうぎこうてい}を涵養する^{かんよう}躰^{しづけ})という説があります。自ら儒教講釈もし、学問所「湯島聖堂(孔子廟)」を元禄三年(1690)に建立するなど歴代将軍の中でも最も忠義尊皇心が厚い将軍とされています。方手落ちな「喧嘩両成敗」ならぬ倫理裁量が窺われ、「城破却」「城存続」のアンバランスが突出しています。今回は、藤井松平氏入部、上山城再築願いを見ていきます。



「赤穂浪士討ち入り」の絵図

参考文献:「上山市史」、「上山見聞随筆」⑮⑯、「上山三家見聞日記」⑪、「地区誌北町」別冊「人別宗旨改帳」を参照しました。